

(令和2年11月30日)

< ワンポイントレッスン (実践) >
(マーケットタイミング指標・その3)

マーケットタイミング指標、今回はその3「売買代金回転率」。市場での取引量(売買代金)を時価総額で除して計算をします。売買が活況な時には回転率が高く、閑散な時は低くなります。一般に売買代金を年換算して時価総額で除しますが、日次、あるいは週次ベースで売買代金回転率を算出する場合、売買代金の年換算方法などで様ではないことに注意が必要です。なお、売買代金回転率が高くなるのは、①.株価が上昇して売買が活況になっている場合と、②.今年3月のコロナショックの様に売りが殺到して大量の取引が行われた場合があります。

上方への行き過ぎ指標としては、上昇ピッチを測る移動平均乖離率、ピッチの高い銘柄数がマーケットに占める割合を図る(先週コメントした)移動平均高乖離率銘柄比率、他にも信用取引評価損率、騰落レシオ等が挙げられますが、取引量をベースにみる売買代金回転率は、重要なシグナルです。

(売買代金回転率、東証第一部市場)

